

# 京都の講演と大阪の見學

## —土木學會第1回年次講演會—

今年から土木學會年次學術講演會が開かれる事になつて、其第1回を4月10日より京都帝國大學構内に於て開催された。

全國各地より參加した會員900餘名、講演者80餘名、發表論文90餘に達し、11日午後より見學會に移り12日夜神戸市に於て解散する迄、好天氣と櫻花の候に恵まれ、土木學會の催しとしては空前の盛會であつた。

先づ第1日の講演會は京大法經大講堂に於て定刻の午前8時、講演委員長高西敬義博士の開會の挨拶に始まり、大河戸博士の會長講演に次ぎ、近藤泰夫氏の司會に依り講演に移つた。

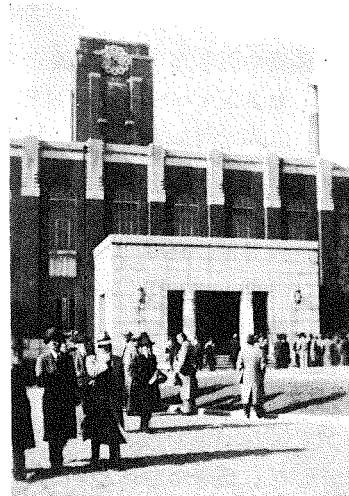
講演は應力、橋梁、鐵道、材料、隧道、上下水道、水力電氣、河川、港灣、測量、都市計畫、道路、土木一般等の部門に分け、之を3講堂に分ち、京大の最も廣い教室のみを使用したのであるが、何れの室も殆んど満員の盛況であつた。

講演者は京大、東大、北大、九大其他の教授も少數あつたが、大多數は内務、鐵道、府縣市に於て施工せる著名工事の擔當者であつた。然も講演者は何れも青年期、中年期の人が多く、其經驗と研究とを熱心に力強く發表されつゝある事は注目すべきである。唯民間講演者の數の少なかつた事は淋しい感を

與へた。

講演數が多數なる爲、各分科の聽講者が時々移動するのは止を得ないが、隧道工事の講演等に於ては關門隧道の如き時代の興味を引くものゝ外は會場が急に淋れる様な事もあつた。此等

の講演は平凡無味なるが様に見えても、講演者は自ら其工事の實際に當り幾多の危険を犯して慘憺たる苦心と努力を拂つてゐる最も貴重なる講演で



(1) 第2、第3會場の前景

ある事を思ふと寧ろ敬度の念さへ湧くものがあつた

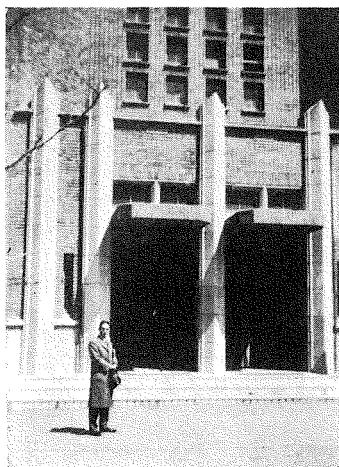
一般に短時間に要領を得る爲の準備として圖表や寫眞等を用ひられたのは効果的であり又興味もあつた。映畫を用ひたものは青森築港工事の大爆發一つであつたが、將來はもつと多方面に利用されたいものである。

航空に關するものは寫眞測量のみで、航空港施設に關するもの無つたのは甚だ物足りない感であつた。

第1日の講演終了後、京都市長主催の園遊會が平安神宮苑内に催され會員一同が招待された。神宮に參拜後會員は三々五々市民歡樂の間に交つて附近を散歩しながら京都の春光を浴び、やがて神苑内に入ると林泉の美はまことに日本庭園の精粹である。池畔の櫻は半ば散つてゐるが、神宮横手の枝垂れ櫻は満開である。園内處々に立食の模擬店が設けられ、會員は池畔に樹下に檻上に杯を交はし、又は串團子を擱んで古都の春を惜むの風情である。やがて園の中央なるマイクロホンを通じて京都市長の歡迎の辭及び大河戸會長の謝辭があり、同地畔より拍手を以て之に和し、主客歡を盡して散會したのは5時頃であつた。場外は恰も京都の染織祭で行人に賑つてゐる。其中を徒步で八坂神社境内の所謂祇園の夜櫻見物に向つた人も多い。

第2日の11日は午前中が昨日に續く講演會で、三會場とも昨日に劣らぬ聽講者であつた。豫定の如く此の大規模の第1回年次學術講演會も盛會を以て無

### (2) 第1會場の景。



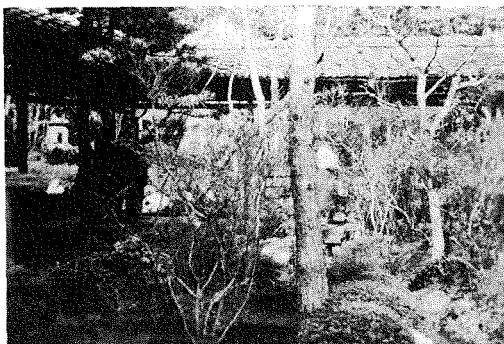


(3) 平安神宮苑内の園遊會。

事終了した。

學友會食堂にて一同中食後少憩、午後1時よりA、B、Cの3班に分れて、比叡山大津方面と、八瀬大原方面と、京阪國道下水處理場方面とを見學するのであるが、筆者は八瀬大原方面のB班に加はつた。京大前よりバス數臺を連れて加茂川の上流高野川沿岸を登つた。先年の風水害で橋梁護岸を流失された跡の復舊工事が處々目につく、途中で八瀬遊園地に下車小憩した。此處は比叡山のケーブルカー登り口で、參詣者で賑つてゐる。此の小驛の建物とペンキ塗りの屋根は京都の名所地として頗る殺風景なものである。此處より亦バスにて山間の田舎を左右に見ながら大原村の奥に登ること1里餘にして、三千院に着いたのは2時すぎである。古色を帶びた山門前で一同記念撮影をなし、順次院内を拜観した。佛堂は藤原時代の建造で、其藥師如來の像は國寶となつてゐる。堀河天皇の第二皇子が門主となられてから後數十世の間は皇族相承の制となり、天臺宗三門跡の一として有名な所である。寺院としては構造も大

(5) 寂光院の汀の松。



(4) 三千院山門前の見學班。

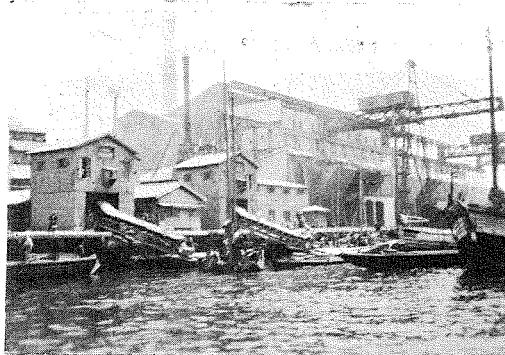


らず、且つ市外遠くの山間に在るが、然も尙ほ參拜者の絶えぬ所以である。院を辭して隣の大原陵に參拜した。順徳院と御鳥羽院の陵である。此所より徒歩にて小逕を下り高野川の上流を渡つて西側の山麓に入り寂光院に着いた。尼僧の案内で狭い御堂や庫裡を拜観し庭前に記念撮影をした。寂光院は天臺宗の尼寺であるが、壽永の秋に平家の一門と共に壇浦に入水された建禮門院平徳子が、心ならずも救ひ上げられ、後に此の寺に閑居せられた。

いまや夢 昔や夢とまよはれて  
いかに思へど うつゝともなき

と御詠ありしこと後白河法皇がこの居を訪れさせたまひし大原御幸の事など平家物語に見えて有名な處である。建物は小さいが山間の小池に林泉の趣を備へ、歴史を偲ぶにふさわしき處である。寶物など拜観し、門前の休茶屋にて大原村の村長及青年團の好意による茶菓の饗をうけ繪ハガキと當山特産の名もゆかしき草花など贈られた。斯くて再び街道に出で待合せるバスに分乗して一同京都市に入り、午後6時より京都ホテルに於て開催の土木學會懇親會に臨んだ。

見學を終つた各班の會員が京都ホテルに集まると談話室は急に賑かになり、定刻に至るや大食堂も殆んど満員の状況である。土木學會の會合として斯く食堂賑つた事は東京に於ても曾て見られぬ事である。席定まるや土木學會關西支部長高西博士立ちて挨拶を述べられ、次いで會長大河戸博士立ちて關係各方面へ深厚なる意味の謝辭を述べられ、京大教授の大井清一博士は主催者側を代表して講演會の盛況を數字的に發表された。次いで前會長井上秀二氏は第1回年次學術講演會の發案者としての感想を述べ



(6) 大阪浅野セメント工場。

られ、北大教授倉塚良夫博士は北海道の土木施設の紹介と希望を述べられ、次に南満洲工業専門学校教授淺野好氏の北支方面の土木施設に関する視察談所感等を述べられた。斯くて一同歓を盡して散会したのは9時頃であった。

12日は早朝京都の旅を立つて大阪に来り、大阪市廳に集合せる見學班に加つた。本日の見學は全員同行であるから中々の賑ひである。參加者は一般に若い人が多いが、老先輩も當相に見える、特に前會長田邊朝郎博士は第1日の講演會からすつと本日迄参加されてゐる熱心な態度には敬服した。見學班一同は市廳樓上で少憩の後、地下鐵にて難波に出でバスを連れて市場橋附近の地下鐵工事箇所に至り、其所のコンクリート・ケーソン工事に就て高速度鐵道建設部長橋本敬之氏のケーソン施工に関する現地講演を聽き路上のケーソン工事を見學した。地下鐵工事にケーソンを利用せるは此工事が最初であるが、不良地盤に對する施工法としては最も安全性に富んだものとして、非常な好成績を以て既に11箇沈設完了し、今や殘す處僅かに3箇で、6月末には全部沈設を完了の豫定である。尙本ケーソンの施工は東京の白石多士良氏の經營せる白石基礎工業會社の手になるもので、此外に大阪市土木部の新奇工事として注目的となつてゐる安治川河底隧道工事の兩橋臺部分も白石式のケーソンにて施工中である。大阪市内の土木建築の諸工事には種々な基礎工法が採用されてゐるから見學するには現在最も良い時期ではないかと思はれる。

ケーソン工事見學後再びバスに乗り、津守下水處理場に至り、市の下水課長鈴木義一氏の現地講演を聴きたる後、場内を見學した。廣大なる場内の諸設

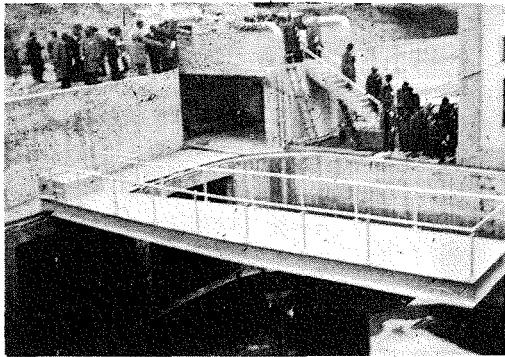
備工事は殆んど完成してゐる。近く下水處理の全機能を發揮するに至れば、大阪市の中権部人口73萬4千人、排水面積1,403ヘクタールを處理するものである。此等の大工事は何れ稿を改めて紹介するつもりである。

一行は赤バスに乗り木津川岸の淺野セメント工場に至り、工場長佐久間國三郎氏の説明を聞き、各係員の案内に導かれて工場内を上下左右に一巡し、セメント製造の工程を見學して機械設備の完全なるに驚いた。本工場は昭和9年10月以来操式に依るペロセメントを製造し、其高強度の優秀品を以て知られてゐる。工場見學後一同は講堂内に設けられた食卓に就いて晝食の饗應をうけ、尙見學記念としての銅製の土産物やセメント説明の印刷物を贈られた。一行は淺野社の好意を謝しつつ工場を離し、直に大阪市港灣部の汽船3艘に分乗して木津川運河を行く、左右両岸に大工場が並びして河水は油で黒光りしてゐる。やがて船は一つの跳上橋の下を通つた、之は今は故人となつた山本卯太郎君の設計製作である。土木學會の旅行毎に淋しく思ふ事は那須章彌氏の無い事と山本君のない事である。然し此2人も今回の如く盛會に土木學會の一行が其目的を達成しつゝある事を知つたなら大に喜んでゐる事であらう。

船が港内へ出ると其右角に港灣部のプロツクヤードがある。防波堤用のコンクリート・ケーソン其他特種護岸用のコンクリート・プロツクなどを製作する處で、其工場設備の完全なるを望見すると造船所の觀がある。船が港内に進み出ると、左沖合に防波

(7) 地下鐵ケーソン工事場に於ける橋本氏の現地講演。





#### (8) 下水處理場に於ける鈴木氏の講演。

堤アーチの倒れたる状況が見える。其尚ほ沖の方に復興の新防波堤工事が遙かに見える。大棧橋前から天保山安治川口に出ると出入の船舶も多くなる。我々の船は静かに自波を蹴つて港内中央部を進んでゐる。思ふに大阪港は今日我國の輸出入貿易額の第一位を占め、年額37億萬圓に達し、其うち外國貿易だけにても横濱に次いで我國の第三位を占むるの盛況であるが、大阪市は之が爲には明治30年以来昭和4年迄の30年間に1億の工費を投じて此港湾設備を完成したのである。而して地質不良其他技術的にも財政的にも幾多の困難を経て來た、其忍苦時代の技術的先輩は今日既に故人となつてゐる人が多い。港灣部は今や第二次修築工事と共に先年の風水害に依る復舊工事を進め、尙將來の發展に備へつゝある。

之より船が右に進むと住友の經營せる北港に出る、左側に防波堤用の捨石をしてゐる和船が見る。其一部には既に防波堤用のコンクリート・ケーソンが整然と沈設されてゐるものも見える。右側は埋立及岸壁工事中である。

船が新淀川口に出ると、向ふに黒煙漂々たる大煙突の林立したのが見える、我等の船は既に尼崎港に接近したのである。

尼崎築港株式會社は岡部三郎博士が技術家重役として一切の計畫經營に當つてゐる點で有名である。工事設備として強力なるサンド・ポンプが最も有効に働いてゐるもので、既に數十萬坪の埋立を完成し、關西共同火力發電所其他の大工場が其地内に建設されてゐる。其發電所傍に上陸した一行は神戸市バス十数臺を連ねて阪神國道に出で神戸港に向つた。

神戸港メリケン波止場にて内務省神戸土木出張所兵庫縣、神戸市等よりの諸種の参考圖書類を贈られ、

直ちに内務省の汽船3艘に分乗して神戸港を一巡見學した。

神戸港は水面積920萬平方米もあつて大阪港よりずっと廣いのであるが、何となく狭く見えるのは大船の出入が多いからであらうか。其外國貿易額は我國の第一位で、年額16億圓に達してゐる。此外に内國貿易年額13億圓に達し、1ヶ年の出入船舶約3萬艘、貨物約1千5百萬噸(昭和10年)に達してゐる。目下港内東部に第5、第6突堤を工事中であるが、尙其東に約1千萬平方米の港擴張計畫が立てられてゐる。

神戸港内を一巡した一行は兵庫突堤に上陸し、先廻りのバスにて神戸市水道部の奥平野淨水場に向つた。市の中央を過ぎて湊區楠谷町の山麓に至り、淨水場境内に入ると、櫻は既に散つてゐるが展望の良い高臺である。濾過池の傍の廣場に席を設けて茶葉の饗をなげながら少憩中に、水道部長村山喜一郎氏の現地講演を聴き、次いで急速濾過池其他の設備を見學して場外に出て、再び先のバスを連ねて神明國道の見學に向つた。神戸市内を貫いて景勝の地須磨、鹽屋、垂水、舞子、明石等、青松白砂の間に砥の如きアスフルト鋪裝道路はツーレナイト・ピチューシックの工法に依つて昭和8年3月完成されたものである。此工費650萬圓、ドライブ・ウェイとりして今我等が之を踏んでゐるのであるが、之が亦交通產業上の利益は實に莫大なものであらう。舞子海岸に少憩して薄暮の頃再びバスに乗じて神戸市内に

#### (9) 神戸淨水場に於ける村山氏の講演。

